

周術期 口腔機能管理に ついて

歯科口腔外科診療部長

いま い まさ ゆき

今井 正之



歯科口腔外科スタッフ

周術期とは？

入院、麻酔、手術、回復といった患者さんの術中だけでなく前後の期間を含めた一連の期間をいいます。一般に手術に必要な3つの段階、術前、術中、術後が含まれます。

口腔機能管理とは？

摂食（せつしょく食事を摂る）、咀嚼（そしやく食物を噛み、食べやすくする）、構音・発音（言葉を発する、口笛を吹く）、嚥下（えんげ水や食物を飲み込む）、呼吸（空気の出入り口）、消化（唾液中のアミラーゼによるデンプンの分解）、味覚（飲食可能かの判断、および食事を楽しむ）など多くの口腔の果たす役割・機能すべてを健康に保つべくケアすることを言います。

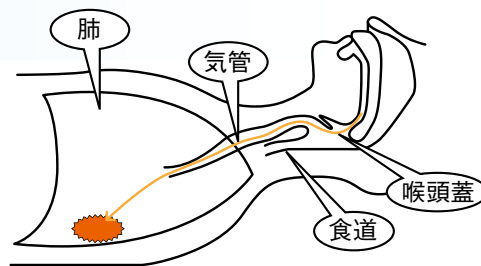
当院では全身麻酔手術を受けられる患者さんに対して『周術期口腔機能管理』を実施しております。



周術期口腔機能管理の効果

①手術後の肺炎予防

口の中の細菌が肺に入ると肺炎を起こします。特に手術後で抵抗力が下がった患者さんには発症のリスクが高くなります。また、全身麻酔で使用する挿管チューブを伝わり、口腔内細菌が気管に入り、肺炎が起こる可能性があります。



細菌を含んだ唾液が気付かない間に誤嚥され、肺に吸い込まれることで肺炎を起こす。

②早期退院と薬剤使用量の抑制

術後の肺炎を防ぐことにより早期退院と抗菌薬などの使用薬剤を最小限に抑えることができます。

③手術部位の感染予防

唾液とともに飲み込んだり、血液中に入り込んだ口腔内細菌が手術した部位に感染することにより治癒が遅れる可能性があります。

④全身麻酔の挿管時の歯の損傷や脱落の防止

特に前歯がグラついている場合には、術前に抜歯や歯の固定、シーネ（マウスピース）の作製を行います。

⑤ 口腔疾患の予防

口の中が不潔であると歯周病が進行し、歯の周りの血管から口腔内細菌が全身に広がります。その結果、糖尿病、心疾患、脳卒中、低体重児出産などの発症のリスクが2倍以上高くなります。

⑥ 術後の口腔機能の早期の回復

口腔乾燥を和らげる方法や美味しく食べる方法、口腔機能訓練をアドバイスします。



周術期口腔機能管理はチーム医療が必要

口腔清掃の他、口腔機能のケアも併せて行わない限り、効果は上がりません。『口腔ケア＝口腔清掃』と誤解されることが多く、口腔機能が低下している患者さんに口腔清掃のみを行うと、歯の表面や口腔粘膜から口腔内微生物を引き剥がし、遊離させることとなります。そして、その遊離した微生物を十分に回収できないと、気道や食道を通じて肺や胃に押し込む結果になってしまいます。すなわち、『口腔ケア＝口腔清掃＋口腔機能訓練』ということになります。さらに術後に早期の退院、社会復帰、健康な生活を取り戻すには術後から低栄養の予防や指導、口腔機能訓練が必要です。

このように周術期口腔機能管理は専門的な知識が要求されるとともに、チーム医療が必要とされます。当院では歯科医師、歯科衛生士、口腔ケア学会認定看護師の他、NST（栄養サポートチーム）、RST（呼吸サポートチーム）、ST（言語聴覚士）等の連携のもとで行われています。



入院前、退院後はかかりつけ歯科医院への受診をお勧めします

全身麻酔での手術、治療が円滑に進むよう、入院前からかかりつけ歯科医院の受診をお勧めします。

入院まで数日間の余裕がある場合は、主治医より“かかりつけ歯科医院”の受診を勧められることがありますので、ぜひ受診してください。



入院患者さん用
説明パンフレット